


令和7年度 現地検討会等実施状況 (森林計画)

9	国有林	67
	都道府県	41
	市町村	12
	森林組合	8
	林業事業体（森林組合を除く）	2
	研究機関	19
	他省庁	0
	その他	5
	合計	154




154

検討会名	開催月日	主催・共催	開催地	特に効率的な施業を推進する森林の有無（国有林）	出席者	目的	内容	写真
由仁町伏見地区森林整備推進協定の事業実施に係る現地意見交換会	5月14日	主催：空知森林管理署 共催：由仁町	●由仁町役場会議室 ●由仁町有林 ●由仁町（由仁国有林14林班）		国有林 7名	由仁町伏見地区森林整備推進協定に係る事業について、事業を開始するにあたっての具体的な事業内容の確認、事業手順の調整等。	由仁町町有林における協定関係者（由仁町、南そらち森林組合、JFEエンジニアリング㈱）及び国有林が集まり、双方の整備協定全体事業計画及び令和7年度事業計画の確認、事業実施時期等の打合せ、現地確認等を行った。	
					都道府県 名			
					市町村 1名			
					森林組合 2名			
					林業事業体（森林組合を除く） 名			
					研究機関 名			
					他省庁 名			
					その他 3名			
合計 13名								

現地確認等の様子



令和7年度 現地検討会等実施状況

(森林計画)

<p>赤井川地域森林整備推進協定現地検討会（ストックヤードの活用）</p>	<p>6月23日</p>	<p>石狩森林管理署</p>	<p>●積丹町 ●赤井川村</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>国有林</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>都道府県</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>市町村</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>森林組合</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>林業事業者（森林組合を除く）</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>研究機関</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>他省庁</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13名</td> </tr> </tbody> </table>	国有林	5名	都道府県	5名	市町村	3名	森林組合	名	林業事業者（森林組合を除く）	名	研究機関	名	他省庁	名	その他	名	合計	13名	<p>積丹地域森林整備推進協定では、締結3者の合同森林整備について、事業の発注時期の統一化、共同土場の活用、素材の同時期の販売など極力統一化し、有利販売や事業者のコスト低減を図ることを主眼に令和2年度に実施した。その結果が非常に良好であったことから、令和6年1月期に締結した赤井川地域森林整備推進協定においても、同様の取組展開を考えており、赤井川村へ新設予定のストックヤードの参考とすべく現地検討会及び意見交換を実施。</p>	<p>1. 積丹地域森林整備推進協定におけるストックヤードの活用 2. スtockヤード作設に関する事項 (1) 設置場所の検討 (2) 設置場所の確保 (3) 設置場所の整備 3. 同時期に事業を進めることのメリット ① 従来、素材を扱う事業者がおらず、請け負う事業者の確保が困難であったが、国有林と同時期に実施することにより、事業実施する事業者の確保が容易となった。 ② 3者の事業を同一の林業事業者が請負ったことから、事業間の調整が容易となるなど効率的な作業を行うことができた。 ③ 同時期に販売を行ったことで、当初「切り捨て」として計画されていた間伐材が有価で販売できた。 ④ スtockヤードの活用によって販路が広がるなど有利な販売ができた。</p>	 <p>ストックヤード現地検討会(野塚現地)</p>  <p>ストックヤード現地検討会(赤井川村会議室)</p>
国有林	5名																								
都道府県	5名																								
市町村	3名																								
森林組合	名																								
林業事業者（森林組合を除く）	名																								
研究機関	名																								
他省庁	名																								
その他	名																								
合計	13名																								
<p>桂の沢地区雨竜町有林森林整備箇所見学会</p>	<p>7月8日</p>	<p>雨竜町 空知森林管理署北空知支署</p>	<p>●雨竜町有林 ●雨竜町（桂の沢国有林408林班）</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>国有林</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>都道府県</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>市町村</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>森林組合</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>林業事業者（森林組合を除く）</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>研究機関</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>他省庁</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>13名</td> </tr> </tbody> </table>	国有林	9名	都道府県	名	市町村	3名	森林組合	1名	林業事業者（森林組合を除く）	名	研究機関	名	他省庁	名	その他	名	合計	13名	<p>雨竜町桂の沢地域森林整備推進協定に基づく現地検討会</p>	<p>令和7年度町有林整備事業の概要を説明。森林整備予定箇所を見学し、具体的な施業方法や植栽樹種について意見交換を行った。 また、町道を活用した国有林へのアクセス・路網作設を前提とした森林施業の考え方を説明。</p>	 <p>森林整備予定箇所の見学の様子</p>
国有林	9名																								
都道府県	名																								
市町村	3名																								
森林組合	1名																								
林業事業者（森林組合を除く）	名																								
研究機関	名																								
他省庁	名																								
その他	名																								
合計	13名																								




令和7年度 現地検討会等実施状況

(森林計画)

地域林政連絡会議現地見学会	7月8日	日高北部森林管理署 日高南部森林管理署 日高振興局森林室 日高振興局産業振興部林務課	●平取町（亜別国有林1248林班ほか）	国有林	9名	<p>毎年度開催している地域林政連絡会議について、令和7年度は当署が幹事であったことから、地域課題として、平取町、平取アイヌ協会と「21世紀アイヌ文化伝承の森再生計画」の一環として取り組んでいる治山施設改良による魚類の生息環境改善、北海道古来の森の再生のための広葉樹植栽試験、フクロウ類による野鼠対策等を実施している亜別国有林を視察し、関係機関から連携と協力を得るための情報共有を行う。</p>	<p>地域林政連絡会議の中で、取組みの目的やこれまでの経緯と合わせて、魚道の設置状況や今後の課題等について説明を行った。</p> <p>現地では、当時の施工状況や石積みの工夫点など施設に関することや、魚類の遡上状況などの説明を行った。植生試験地については、平取町で行っている「イオル型多層林」の形成について植栽方法や生育状況について説明を行った。このほか、野鼠対策として設置したフクロウ類の巣箱の設置も行った。</p> <p>魚道については「治山施設としての機能への影響」、試験地については「シカ柵内の植生回復状況」等への関心があった。</p>	 <p>魚道の説明</p>  <p>植栽試験地の説明</p>
				都道府県	8名			
				市町村	名			
				森林組合	名			
				林業事業体（森林組合を除く）	名			
				研究機関	名			
				他省庁	名			
				その他	1名			
合計	18名							



令和7年度 現地検討会等実施状況

(森林計画)

<p>カラマツ天然更新現地見学会</p>	<p>7月25日</p>	<p>胆振東部森林管理署</p>	<p>●苫小牧市（苫小牧国有林1287林班、1304林班、1355林班）</p>	<p>有</p> <table border="1"> <tr><td>国有林</td><td>2名</td></tr> <tr><td>都道府県</td><td>7名</td></tr> <tr><td>市町村</td><td>4名</td></tr> <tr><td>森林組合</td><td>1名</td></tr> <tr><td>林業事業体（森林組合を除く）</td><td>名</td></tr> <tr><td>研究機関</td><td>名</td></tr> <tr><td>他省庁</td><td>名</td></tr> <tr><td>その他</td><td>名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>14名</td></tr> </table>	国有林	2名	都道府県	7名	市町村	4名	森林組合	1名	林業事業体（森林組合を除く）	名	研究機関	名	他省庁	名	その他	名	合計	14名	<p>平成30年に発生した胆振東部地震の被災崩壊地に高密度に発生したカラマツ実生苗高密度天然更新地の実証に取り組んでいる厚真町への支援。</p>	<p>苫小牧地区国有林で、風倒被害跡地に更新した樹高・生育密度の異なる高密度カラマツ天然更新地を北海道及び厚真町、森林組合等の林業関係者と現地見学及び意見交換を行った。</p>	 <p>現地見学・意見交換の様子</p>
国有林	2名																								
都道府県	7名																								
市町村	4名																								
森林組合	1名																								
林業事業体（森林組合を除く）	名																								
研究機関	名																								
他省庁	名																								
その他	名																								
合計	14名																								
<p>東京大学北海道演習林職員との樹群択伐天然更新施業現地検討会</p>	<p>7月29日</p>	<p>北海道森林管理局 企画課、計画課</p>	<p>●岩見沢市（万字国有林24林班）</p>	<p>有</p> <table border="1"> <tr><td>国有林</td><td>8名</td></tr> <tr><td>都道府県</td><td>名</td></tr> <tr><td>市町村</td><td>名</td></tr> <tr><td>森林組合</td><td>名</td></tr> <tr><td>林業事業体（森林組合を除く）</td><td>名</td></tr> <tr><td>研究機関</td><td>19名</td></tr> <tr><td>他省庁</td><td>名</td></tr> <tr><td>その他</td><td>名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>27名</td></tr> </table>	国有林	8名	都道府県	名	市町村	名	森林組合	名	林業事業体（森林組合を除く）	名	研究機関	19名	他省庁	名	その他	名	合計	27名	<p>ここ数年、東京大学北海道演習林と北海道森林管理局は、天然林の施業や資源把握を主なテーマとして、職員相互の交流を通じた協力に取り組んできた。今回、その一貫として東大演習林職員による樹群択伐天然更新施業実施個所の現地検討会を実施し、今後の樹群択伐天然更新施業に資する。</p>	<p>伐採・更新補助作業を実施した初回伐採区画見学や初回伐採区画選定の意図を説明し、今回伐採しなかった他の伐採区画と比較しながらの意見交換を行った。東大演習林からは、演習林で実施している樹幹下の地がき施業の経験も踏まえ、「200年スパンで考え、20年刻みに事業を繋ぐ仕組み、事業規模で劣化した天然林をササの繁茂やシカ食害から多様な樹種から構成される森林への誘導を可能とする仕事づくりを一緒に考えていきたい。」といった意見が出され、今後の樹群択伐天然更新施業の実施に資する意見交換を行った。</p>	 <p>初回伐採区画見学の様子</p>
国有林	8名																								
都道府県	名																								
市町村	名																								
森林組合	名																								
林業事業体（森林組合を除く）	名																								
研究機関	19名																								
他省庁	名																								
その他	名																								
合計	27名																								
<p>タケカンバ二次林の施業（間伐）現地見学会</p>	<p>10月16日</p>	<p>後志森林管理署</p>	<p>●共和町（ワイス国有林1420林班い小班）</p>	<p>有</p> <table border="1"> <tr><td>国有林</td><td>15名</td></tr> <tr><td>都道府県</td><td>14名</td></tr> <tr><td>市町村</td><td>名</td></tr> <tr><td>森林組合</td><td>名</td></tr> <tr><td>林業事業体（森林組合を除く）</td><td>2名</td></tr> <tr><td>研究機関</td><td>名</td></tr> <tr><td>他省庁</td><td>名</td></tr> <tr><td>その他</td><td>1名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>32名</td></tr> </table>	国有林	15名	都道府県	14名	市町村	名	森林組合	名	林業事業体（森林組合を除く）	2名	研究機関	名	他省庁	名	その他	1名	合計	32名	<p>広葉樹二次林に関する施業の普及を図る。</p>	<p>山土場にて小班的沿革、伐採に関する検討事項を署の担当から説明し、実行事業者から実際に間伐作業を行った際に苦労した点について説明を行った。その後、林内へ移動し間伐後の現況及び2.5mを超えるチシマザサが林床を覆う状況を確認し意見交換を行った。 事業者からは、「この現場ではチシマザサが濃く、ハーベスタを使用した伐採は根際を目視できないため困難」「末木枝条は末木枝条が多くするため生産性が上がらない」等の意見が出された。 意見交換では、「将来の林形はどう考えているのか」「末木枝条の販売は行わないのか」等の意見があった。 今後、間伐後の林況を観察しつつ次回の伐採方法の検討を行うとともに、末木枝条の販売へ向けて引き続き取り組んでいく考えである。</p>	 <p>間伐の仕様等について説明</p>
国有林	15名																								
都道府県	14名																								
市町村	名																								
森林組合	名																								
林業事業体（森林組合を除く）	2名																								
研究機関	名																								
他省庁	名																								
その他	1名																								
合計	32名																								

令和7年度 現地検討会等実施状況

(森林計画)

<p>民有林・国有林施業地相互見学会</p>	<p>11月20日</p>	<p>主催：渡島森林管理署 共催：渡島総合振興局東部森林室</p>	<p>●七飯町（カリマ国有林2105林班ろ2小班、2115林班よ小班 ●民有林：67林班85小班、62林班67小班）</p>	<p>有</p> <table border="1"> <tr><td>国有林</td><td>7名</td></tr> <tr><td>都道府県</td><td>7名</td></tr> <tr><td>市町村</td><td>名</td></tr> <tr><td>森林組合</td><td>1名</td></tr> <tr><td>林業事業体（森林組合を除く）</td><td>名</td></tr> <tr><td>研究機関</td><td>名</td></tr> <tr><td>他省庁</td><td>名</td></tr> <tr><td>その他</td><td>名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>15名</td></tr> </table>	国有林	7名	都道府県	7名	市町村	名	森林組合	1名	林業事業体（森林組合を除く）	名	研究機関	名	他省庁	名	その他	名	合計	15名	<p>民有林担当者と国有林担当者がお互いの森林施業地等を見学し相互の理解を深める。</p>	<p>最初に座学の時間を設け、民有林担当者より民有林・森林組合の概要や補助金制度について、国有林担当者より国有林の概要や森林計画から収穫・造林までの一連の流れなどについて説明を行い、お互いの組織概要や施業方法の違いなどについて理解を深めた。 次に、民国それぞれの一般的な施業地を見学することとし、民有林は皆伐・新植施業地、間伐施業地、国有林は復層伐・新植施業地を見学した。 国有林職員からは、「間伐の考え方や実行の仕方に違いがあり、国有林とは林相が異なる」、「森林所有者の意向に寄り添った施業の進め方が印象的」といった声があった。 民有林職員からは、「森林所有者は低密度植栽に抵抗が強いので、今後、低密度植栽を推進していくために、国有林で率先して実行し、成功事例を示してほしい」といった意見があった。 今後については、今回話題となった低密度植栽箇所などを対象に引き続き相互見学会を開催していく考えである。</p>	 <p>施業地見学の様子</p>
国有林	7名																								
都道府県	7名																								
市町村	名																								
森林組合	1名																								
林業事業体（森林組合を除く）	名																								
研究機関	名																								
他省庁	名																								
その他	名																								
合計	15名																								
<p>森林の蓄積把握勉強会</p>	<p>2月24日</p>	<p>主催：滝上町森林組合 共催：西紋別支署</p>	<p>●滝上町役場会議室</p>	<p>有</p> <table border="1"> <tr><td>国有林</td><td>5名</td></tr> <tr><td>都道府県</td><td>名</td></tr> <tr><td>市町村</td><td>1名</td></tr> <tr><td>森林組合</td><td>3名</td></tr> <tr><td>林業事業体（森林組合を除く）</td><td>名</td></tr> <tr><td>研究機関</td><td>名</td></tr> <tr><td>他省庁</td><td>名</td></tr> <tr><td>その他</td><td>名</td></tr> <tr><td>合計</td><td>9名</td></tr> </table>	国有林	5名	都道府県	名	市町村	1名	森林組合	3名	林業事業体（森林組合を除く）	名	研究機関	名	他省庁	名	その他	名	合計	9名	<p>森林の蓄積把握の手法等について意見交換を行い、知識の向上及び理解の醸成を図る。</p>	<p>滝上町森林組合で実施している森林の蓄積把握の手法等について説明を受け、とりわけレーザー計測により得たデータを活用しながらUAVや一部人力による補足を行い、森林の蓄積データを作成していることが説明された。 意見交換の中では、レーザー計測から得たデータの精度や広葉樹の侵入の多い林分の扱いなどの質問・意見が出された。 森林の蓄積把握において、リモートセンシング技術が使える場所・使えない場所は区々であり、人手をかけずに精度の高い蓄積把握が可能か今後においても勉強会や意見交換を継続して行っていきたい。</p>	 <p>勉強会座学の様子</p>
国有林	5名																								
都道府県	名																								
市町村	1名																								
森林組合	3名																								
林業事業体（森林組合を除く）	名																								
研究機関	名																								
他省庁	名																								
その他	名																								
合計	9名																								